
梅雨の時間

やや夏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

梅雨の時間

【Nコード】

N3043M

【作者名】

やや夏

【あらすじ】

梅雨の時期に大切なものは。

5月29日、梅雨入りが発表された。

たくさん人間と、たくさん建物に囲まれているとやっぱり息苦しくなる。

その中でこの狭い家に一人で居ることはなんだか取り残されているように感じて、ただ虚しい。

じつとりとまとわりつく湿気や洗濯物が乾かないことを考えると憂鬱になるけれど、外の音が一つになる時、私は深呼吸をしてしまう程息苦しさや虚しさから解放されて楽になれる。

だから私には雨が必要だ。

テレビも音楽もつけていないこの部屋の中に響く音は、古い食器乾燥機と冷蔵庫のうなる音だけ。その音も雨と一つになる。

私は壁にもたれながら外を見つめていた。

「本当、落ち着く……」 深呼吸を一回、二回。すると、私の隣で深呼吸が一回。

愛犬のポチ太郎だ。1ヶ月前から飼い始めた。ポチ太郎はふせの体勢で目は悲しそうに私を見ている。

「ポチ太郎、やっぱり雨嫌い？」

ポチ太郎はその問いに答えるように甘えるような声を出した。

ポチ太郎はこの時期になると、深呼吸と間違えるくらいの深いため息をつく。

「じゃあ、こうしよつか」

私はカーテンを閉めてテレビを付けた。

雨の音がテレビの中の笑い声で小さくなる。

「早く梅雨が終わるといいね」

ポチ太郎が来てから息苦しさや虚しさをあまり感じなくなった。
私には、雨よりも大切なものができたのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3043m/>

梅雨の時間

2011年2月3日12時26分発行